

自己評価シート【こどもの森児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1－1 理念・基本方針

1－1－（１） 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	児童館の理念は区の指針に明文化されています。それに基づいて児童館の基本方針をわかりやすい標語に落として、玄関や学童保育クラブに「こどもの森のおやくそく」と名付けて掲示し、安心安全に楽しく過ごせるよう全体に周知しています。他にも館のパンフレットやおたより、SNS 等を通じて利用者や地域住民への周知を図っています。また、こどもの森児童館の理念である「誰もが楽しめる児童館にする・多様な人が関わりを持てる児童館にする・子ども達の活動拠点にする」といった内容を実践するため、日々ミーティングや子ども達の声に耳を傾けながらイベント開催や運営を行っております。
1－1－（２） 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
一年間のイベントや行事を行事記録や事業計画などを通して振り返り、理念に則った運営ができているか確認しています。そして更に良いイベントができるよう努力しています。	児童福祉法や児童の権利に関する条約、目黒区子ども条例、そして児童館ガイドライン等の内容を全て反映できているとは言えない為、次年度以降も今回の評価に満足せず、改善点を探していきます。

2、児童館の活動に関する事項

2－1 児童館の理念・目的及び施設特性

2－1－（１） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	

(b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいます。
2－1－（2） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を発揮している。	
【判断基準】 (a) 児童館の施設特性を発揮している。 (b) 児童館の施設特性を発揮しているが、十分ではない。 (c) 児童館の施設特性を発揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	乳幼児タイム等を通して、保護者同士や職員との関わりを深めています。また、日々の運営や各イベントでは子どもたちの成長を喜び、そして共感し、信頼関係を深め、地域の子どもや大人が安心・安全に過ごせる居場所として利用されています。
2－1－（3） 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】 (a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 (b) － (c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	子ども同士の間での遊びやじゃれ合いからトラブルに発展した場合には、児童の持つ性格や特性に配慮した言葉掛けを意識しています。体育館などで熱中しすぎるあまり、相手に対して心無い言葉を掛けたり、行き過ぎた行動をとってしまった場合には、否定的な声掛けはせずに「どうしたの？」「大丈夫？」等の双方の児童の気持ちに寄り添う対応を第一としています。その中で何がいけないか、どうすれば良かったか？など、子ども達自身で考えられるような働きかけをし、子ども達と一緒に解決できるように心がけています。
2－1－（4） 児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点

職員会議、ミーティング、職員連絡ノート等を通して、児童についての友達関係や本人の特性について情報共有を行い、トラブルを未然に防ぎ児童達の権利を守ることができています。	基本的には目黒区児童館運営指針及び児童館ガイドラインに沿った運営を行っていますが、部分的に修正していく必要があります。
---	---

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2- (1) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
【判断基準】 (a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。 (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。 (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	遊びや学習をする時でも、子ども達一人ひとりの特徴を踏まえた上で、その子に合った援助を職員一人ひとりが意識して行っています。また、昼礼や職員会議を通して子どもたちの特性についても情報共有を行っています。
2-2- (2) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】 (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。 (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。 (c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	児童館ではオープンライブラリー、わんぱくガレージ、体育館と遊ぶ場所が多数あり、どこで何をして遊ぶか児童自身で選択し自由に過ごすことができます。わんぱくガレージでは様々な工作材料を使い、自由に工作を楽しみ、作った遊び道具で子ども同士、一緒に遊ぶ姿も多く見られます。
2-2- (3) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
【判断基準】 (a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助	

している。 (b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。 (c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	オープンライブラリーでは好きなおもちゃを借りて遊ぶことができ、様々な遊びが展開されています。遊び相手を探す中で自ら声を掛けられない児童には、職員が声掛けのアドバイスなどサポートをすることもあります。多くの場合は児童が自然に誘い合い交流の輪が広がっています。
2－2－（4） 遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
体育館での運動遊びやガレージでの工作、オープンライブラリーでのボードゲームやカードゲームなど、様々な遊びができます。その他にも、けん玉やお手玉検定などの昔遊びを通して、友達や職員に自分の特技を披露して誉めてもらえることで自己肯定感を高めることができる環境設定を心掛けています。体育館遊びでは、低学年は高学年の姿を見て憧れを持ち、高学年は低学年にコツを教えたり、時には低学年と一緒に楽しめるようレベルを合わせたりして遊ぶことができます。	子どもたちは勝敗にこだわる余り、反則をしたり、勝負を途中で放り出したりする姿もありますが、状況を受け入れて最後まで粘り強くやり遂げる事の大切さを伝えています。

2－3 児童館の安全管理

2－3－（1） 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	「防災訓練計画」に沿って毎月避難訓練を実施して有事に備えています。 それ以外に利用者の安全の為、1階入り口に監視カメラの設置、受け付けでの記名や来館者への挨拶、お迎えの保護者の確認など、学童保育クラブと連携を

	とり不審者の侵入しにくい環境を作り、利用者の安全に配慮しております。 2 階の事務室には「事故・怪我・対応フローチャート」を掲示しており、いざという時や事故が起きてしまった場合にどの職員でもスムーズに対応できるよう備えています。
2－3－（2） 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	日々の運営開始前や運営後に清掃及び施設点検を行い、不審物などの有無を確認しています。乳幼児室や体育館、各種スタジオの使用後は必ず室内及び遊具の点検、使用後の体育館は館内作成のチェックシートを活用し破損や紛失などがないかの確認を行い、事故や怪我を未然に防げるようにしています。 また、年に 2 回消防設備点検やエレベーター点検も行っています。